

元気はつらつ新聞

発行：元気はつらつプロジェクト委員会 平成 29 年 3 月 17 日発行

〒 696-0401 邑南町布施 496 布施公民館内

TEL・FAX 0855-84-0651 IP 050-5207-5600

http://zenihou.com

No.5

目次

- ★アン・サリーコンサート
- ★夏休み地域づくりインターンシップ
- ★銭宝の里ウォーキング
- ★元気はつらつプロジェクト 5 年間の活動実績
- ★高齢者ニーズ調査

Ann Sally アン・サリーコンサート in 布施公民館



12月10日(土)アン・サリーさんのコンサートが布施公民館で行われました。

島根県民会館が主催した、地域ステージ事業に応募する形で始まった今回のコンサートは、県民会館の担当の方の熱意で島根県では初公演となるアン・サリーさんをこの銭宝地区に呼んでいただくことができました。

当初、秋の美しい田園風景の中で野外コンサートを企画していましたが、残念ながら日程が合わず、公民館ホールでの公演になりました。当日は邑南町内外から約140名の方がアン・サリーさんの歌と小林創さんの演奏を聞きに来られました。

カフェコーナーでは、広島から1ターンで八色石集落に移住し、花の栽培をされる、元パティシエの西森浩隆さんと布施1集落の黄楊良枝さんが作ったバタークッキーが、130袋全て完売となり大好評。

また、出演者と県民会館のスタッフには地域の女性グループが作ったお弁当と、つぼ(地域の郷土料理で小豆や里芋、蒟蒻が入った汁物)が振る舞われ、アン・サリーさんは、ステージ



で替え歌にされるほど、気に入っておられた様子でした。

当初、1時間の予定だった演奏時間が休憩をはさみ約2時間、年配の方にも親しみのある曲やクリスマスソングなども織り交ぜ、客席を巻き込んで楽しく踊ったり、時にしつとりと胸に響く歌を聞かせてくださいました。

コンサートが終わった後も、心の中に優しい余韻が残る、本当に素敵なコンサートでした。



銭宝のおまを巡ったウォーキング



銭宝地区の景勝地を巡る「銭宝の里ウォーキング」のイベントが10月22日(土)に行われました。

小雨が時折ぱらつく曇り空でしたが、地区内外より2歳から80代まで計56名が参加されました。開会式と準備体操を終えると布施公民館を出発し、それぞれ赤馬滝(往復約3km)、龍岩神社(同6km)、高野山(龍岩神社(8km)の計3コースを賑やかに歩きました。

高野山(龍岩神社)のコースは、下山した後44段の石段を登って神社に参拝というかなりハードなコースでしたが、健脚の方が多かったのか、皆さん笑顔で元気に帰って来られました。

歩いた後は、地域の女性グループが新米のおむすびや具沢山の豚汁、手作りのケーキやコーヒー等を用意しており、ゆったりと疲れた体を休めていました。

参加された方にはアンケートにお答えいただき、山道整備への労いの言葉や、カフェなどのおもてなしが素晴らしい



しかった、また企画してほしいという声を多くいただきました。

元気はつらつプロジェクトを開始した平成24年より、銭宝地区の各集落から高野山頂上に通じる登山道の整備や赤馬滝の散策道、そして龍岩神社の参道周辺の整備と、地域の里山の保全を進めてきました。そのプロジェクトの集大成としてのイベントでしたが、無事、好評のうちにを行うことができました。今年度でプロジェクトは終わりますが、里山の保全整備は、銭宝の里山保存会に引き継がれます。

また、ウォーキングの開催に合わせて、地域の景勝地を紹介する「銭宝の里 お宝マップ」を美郷町宮内在住の



高年齢者ニーズ調査を行いました

木村美郁さんに作成していただきました。木村さんには、赤馬滝駐車場に設置された、案内看板のデザインもしていただき、やさしい雰囲気イラストで、地域に伝わる伝説を紹介してくれています。また、銭宝地区を多く描いてくださっている、高原地区の井口泰裕さんの風景画も使用させていただきました。

銭宝地区別戦略の要の一つとなる、健康福祉部の高齢者の生活支援事業に反映するため、昨年5月末から6月にかけて、銭宝地区の75歳以上の高齢者と65歳以上の独居世帯、計55世帯を対象に、生活支援ニーズ調査を行いました。

日常生活で困っている事、買物や通院、食事の事などを担当の調査員が各家庭を訪問しお聞きしました。調査では、通院や買物への交通手段が町営のバスでは本数も少なく非常に不便なこと、食事の準備も一人だと面倒になってしまう、草刈りや雪かき、重たい物を持つたりすることが難しい等の声が聞かれました。また、現在ではできていてもこの先が不安という方も多くおられました。

今年度から始動している銭宝地区別戦略実行委員会の健康福祉部では、昨年「食のボランティア」を募り、11月にいきいきサロンで食事の提供をしていただくなど活動を開始しました。また、配車サービスや集いの場を実践している地区を視察に行くなど、住み慣れた地域で長く住めるようにするための地域福祉の仕組み作りに積極的に取り組み始めています。

夏休み学生地域づくりインターンシップ

島根県中山間地域研究センター主催の「夏休み学生地域づくりインターンシップ」、今年度も8月7日から約1か月間、3名の大学生を銭宝地区で受け入れました。

それぞれ育ってきた環境も専攻している学部も違う、芯と熱意のある3人が、1か月の間銭宝地区に滞在し、地域の行事や活動に参加し、地域の人と関わりました。

滞在期間のまとめとなる成果発表会には住民44名が参加してくださり、学生の発表を熱心に聞いていました。

発表の中で、岡山県の中山間地域で自然に囲まれて育ち、将来は地域活性化の仕事に携わりたいと考えている愛媛県松山大学の平磯李奈さんは、地域の人の温かさや、地域に密着した公民館の良さを挙げ、3集落から登山道が繋がる高野山や八色石集落を一望できる龍岩神社など、自分たちの集落を望める地元の景勝地にもっと地元の人が訪れてほしい、そして3集落が1つになった「銭宝」としての結束力を強めてほしいと語りました。



児童クラブの子ども達と一緒に。



加藤さん発案の「銭宝ポーズ」で。出羽地区インターン生の上岡泰河くんと一緒に。

地元の岩手県宮古市が東北大震災で大きな被害を受けた経験を持ち、地域おこしや地域づくりに積極的に関わっている青森県弘前大学の加藤あかりさんは、農事組合法人で農業をする良さを「個人で経営するのは違い、地域のひととの会話がずいぶん増え、つながりが強まっている」と挙げ、米作りが中心の銭宝地区の農業に対して、「稲作は半農半Xしやすいので、農村部への移住希望者に対して、地域を理解した上で来てもらえば効果があるのでは」と民泊を取り入れるアイデアを出していました。

海外の発展途上国で地域開発に取り組む父親を持ち、鳥取環境大学で自然環境保全などを学んでいる飯塚達史さんは、元気はつらつプロジェクトの活動で景勝地の環境保全がうまく進んでおり、イベントや行事で活用することにより保全・管理が保たれ、外部への宣伝にもなる、と挙げると同時に、一部の人任せにするのではなく、全住民に共通した地域全体の問題として取り組むべきでは、と問いかけました。また、空き家の活用を進め、集落として

ではなく、銭宝地区という大きな括りで捉えるべき、と訴え「住みやすい場所になれば、人はおのずと寄ってくる。住まなくても、若者や外の人が来るだけで町・地区・集落の何かは変わっているはず」とまとめました。

参加者へのアンケートでは「銭宝の良さを明確にしてくれた」「この地域の美しさは住む人の手により保全維持されている、人々が生活し生産の場であり続けることがこの地域の美しさを守る」という声や、「1か月のインターンシップも今回で3回目になる、発表を聞いて私たちが何か一つでも行動に移していかなければ」という声も聞かれました。また、インターンシップの受け入れについて、また歓迎したいという声を多くいただきました。

成果発表会の後には、地域の女性グループの美味しい手料理をいただきながら話に花を咲かせました。



元気はつらつプロジェクト事業活動実績

5年間の活動の内容をご紹介します

1 プロジェクト委員会の構成

- ・委員長
自治会長兼務（自治会長任期終了後、委員として配置）
- ・委員 20名（地域マネージャーを含む）
男性16名（30代1名、40代1名、50代5名、60代7名、70代2名）
女性4名（40代1名、50代2名、60代1名）
- ・地域マネージャー
男性1名（24年度から勤務）
女性各1名（24年度勤務、25年6月～10月勤務、26年5月～現在勤務）

2 事業目標

- ・銭宝の様子を情報発信、出身者との交流（つながり・絆づくり）
- ・昔ながらの自然環境を取り戻し、訪れる人を増やす
- ・住環境を整備し、農業を中心とした地域づくりで定住促進する

3 活動実績

- つながり・絆づくり
 - ・ホームページ、広報誌による情報発信
 - ・地元出身者との交流（盆帰省時に交流登山等）・アンケート調査・便りの発送（転出者等約140人に年4回発送）
 - ・大学生の体験交流（島根大学作野教授ゼミ合宿・夏休み地域づくりインターンシップ）
- 行ってみたいくなる様な場作り
 - ・高野山登山道・展望台の整備、赤馬滝散策道・休憩所整備、龍岩神社の参道周辺整備、農村公園整備、銭宝の里ウォーキングの開催
- 住んでいる人の満足感を高める
 - ・音楽会（参加者数）
26年度 専光寺ライブ（80名）・みんなの音楽会（110名）
27年度 白築純+白鶴山コンサート（70名）みんなの音楽会（70名）
28年度 アン・サリーコンサート（140名）
 - ・地域の福祉活動
25年度 高齢者世帯意識調査

- 27年度 高齢者世帯 GIS マップ作成
- 28年度 生活ニーズ調査
- ・講演会 島根大学作野教授
24年度「ありのままの地域づくり」
28年度「地区別戦略に向けて」
- ・食事・喫茶の調理
25年度 島大ゼミ合宿
26年度 島大ゼミ合宿・三菱UFJ研修支援・邑南ラボ・音楽会
27年度 島大ゼミ合宿・地域づくりインターン発表会・島大研究生インターン発表会・コンサート・音楽会
28年度 島大ゼミ合宿・地域づくりインターン発表会・銭宝ウォーキング・コンサート

●大学生の銭宝地区体験交流

地域に滞在した学生の数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	合計
島大ゼミ合宿		5	9	7	11	32
島大生（世帯訪問調査）			29			29
学生インターン				3	3	6
応大生（訪問調査）					1	1
合計		5	38	10	15	68

●地域の女性グループの活動

コンサートや学生の発表会等の地域の行事で、食事・喫茶を担当



※詳しい内容は、布施公民館にプロジェクトの活動実績をまとめた書類がありますので、お気軽にお問い合わせください。